

外国語科英語学習指導案

指導学級：1年3組B 14名

指導場所：1年3組 教室

指導者：教諭 有馬 倫子

1 単元名 NEW HORIZON English Course1, Unit7 カナダの学校

2 単元について

(1) 教材観

本単元の題材として、日本の中学生とカナダの中学生ビルがテレビ会議を通してカナダの学校生活についての情報を得る場面が設定されている。グリーン先生の弟であるビルの自己紹介から始まり、互いの国の現在の時刻と天候についての話題、カナダの学校の授業時数や時間、放課後の活動などの生徒に身近な話題から「異文化理解」「情報教育」を意識させる内容となっている。この題材に関連させ、自分の学校紹介として、所在地、生徒数、行事などについてスピーチする活動に結び付けることができると考える。

言語材料としては、疑問詞 Who…?の使い方とその応答、What time…?や How…?を使つての時刻や天気の尋ね方とその応答が扱われている。その他、既習の How many…?や How long…?などの疑問詞も盛り込まれている。疑問詞はコミュニケーションを図る上で欠かせない言語材料であり、疑問詞を含む表現の文構造を確実に理解、定着させることが重要である。これらの疑問詞を使った表現を学ぶことにより、Yes や No を用いた応答だけでなく、さらに詳しい内容について尋ねることができるようになると考えられる。本単元の題材や言語材料から英語で身近なことを英語で表現することに興味をもっている生徒たちにとって、コミュニケーションへの興味・関心を高めるのに適した題材であると考えられる。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、全体的に明るく活動的な雰囲気をもっており、特に「話すこと」に対する生徒の意欲は向上が見られ、積極的に活動している。しかしながら、生徒一人一人の知識の定着や各技能の能力には差異が見られ、英語学習に対して苦手意識をもつ生徒もいる。そのため、生徒一人一人の必要に応じた指導を行いながら、表現活動の際にはペア活動やグループ活動等を取り入れ、互いに高めあえるような学習形態を工夫するようにしている。また、帯活動などを通して、学んだことを繰り返し活用する場を設けることで、学んだ語彙や文構造を定着させるよう取り組んできている。今後はさらに、帯活動において定着させた表現等を活用し、4技能のバランスを考慮した学習に取り組ませることが必要である。そこで、本単元の学習においては、帯活動等を通して、学校を紹介するために必要となる基礎的・基本的な事項の定着を図らせたい。

(3) 指導観

題材の特性を生かし、生徒にとって自分の学校という身近な話題について相手とやりとりができるようになるための学習を展開したい。そのためには、まず自分の学校生活や学校紹介をするために必要な基礎的・基本的な語彙や表現を身に付けさせる必要がある。その上で、自分の学校について、自ら語彙や表現を選択し、紹介する活動に取り組ませたい。具体的には、本単元において多く使用されている疑問詞を用いた疑問文、疑問詞 Who…?や What time…?などを帯活動Q&Aで効果的に活用し、学校の紹介において戸惑いなく質問したり応答したりすることができるよう指導していきたい。また、新出の文法事項等など、基礎的・基本的な内容を定着させるために、第1時から第4時まででは、教科書を活用して言語の使用場面と言語の働きに注目した表現活動を行わせたい。第5・6時では、第1時から第4時までの内容を基に、学校生活や学校紹介をするための表現活動を行わせたい。言語活動においては、生徒一人一人の必要感や課題によりよく対応するために、ICTの効果的な活用や少人数指導を取り入れている。また、ペアやグループでの活動を取り入れ、自分の学習状況について振り返る場面も設定した。このことにより、生徒同士が互いに関わりあいながら、意見交換等を通して、見通しをもって学習を進

められるようにしてきている。

3 単元の学習目標

- 学習したことを活用して学校紹介をすることができる。
- 学校紹介に関する英文を聞いたり読んだりして、内容を理解することができる。
- 疑問詞 Who…?の使い方とその応答, What time…?や How…?を使っての時刻や天候の尋ね方とその応答の意味・用法を理解し、それらの表現を身に付けている。
- ◎ 本単元の主たる表現活動における判断基準「自分の学校についてのスピーチ」

「おおむね満足できる」(B)	「十分満足できる」(A)
<p>I go to Yoshidaminami Junior High School. Our school is in Kagoshima, Japan. It is 64 years old. We have about 300 students and 30 teachers.</p> <p>This is a picture of our Sports Day. We enjoy it every year.</p>	<p>I go to Yoshidaminami Junior High School. Our school is in Kagoshima, Japan. It is 64 years old. We have about 300 students and 30 teachers.</p> <p>We have five classes on Monday and six classes from Tuesday to Friday. The classes are fifty minutes long. We have ten minutes between classes. We have many club activities. I'm a member of the baseball team. This is a picture of our team. I play baseball after school.</p>
<p>所在地, 創立からの年数, 生徒数, 行事についてほぼ定型の表現を用いている。</p>	<p>(B)の定型表現以外に自ら考えた情報を加え, 豊かな内容になっている。</p>

4 単元の指導計画

時	指導の流れ	言語活動(☆)・ICT活用(◎)の工夫
1	<p>Part 1 【目標】人物について紹介しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 帯活動 I・II ・ 新出語句や文構造の理解 ・ 本文の要点把握と音読練習 ・ 疑問詞 Who を用いた表現活動 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 帯活動 I の Q & A を用いて疑問詞を用いた基本的な質問とその応答を定着させる。 ☆ 帯活動 II で <u>学校の所在地</u> を表現させる。 ◎ 題材に関する映像や資料の提示, デジタル教科書の活用を通して, 内容を理解させ, 音読練習をさせる。
2	<p>Part 2 【目標】時刻や天候を伝え合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 帯活動 I・II ・ 新出語句や文構造の理解 ・ 本文の要点把握と音読練習 ・ What time…?や How's the weather?を用いた表現活動 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 帯活動 I の Q & A を用いて疑問詞を用いた基本的な質問とその応答を定着させる。 ☆ 帯活動 II で <u>学校の創立年数</u> を表現させる。 ◎ デジタルコンテンツを用いて, 天気や時間の表現の仕方を理解させる。
3	<p>Part 3 【目標】学校の様子を紹介しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 帯活動 I・II ・ 本文の要点把握と音読練習 ・ 学校の授業等に関することを述べるようになるための表現活動 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 帯活動 I の Q & A を用いて疑問詞を用いた基本的な質問とその応答を定着させる。 ☆ 帯活動 II で <u>学校の生徒数・教員数</u> を表現させる。 ◎ カナダの学校に関する映像の提示, デジタル教科書の活用を通して, 内容を理解させ, 音読練習をさせる。

4 (本時)	Part 4 【目標】 放課後の過ごし方について伝え合おう。 ・ 帯活動 I・II ・ 本文の要点把握と音読練習 ・ 自分の放課後の過ごし方を述べるができるようになるための表現活動	☆ 帯活動 I の Q & A を用いて疑問詞を用いた基本的な質問とその応答を定着させる。 ☆ 帯活動 II で <u>学校の授業数や授業の長さ</u> を表現させる。 ◎ カナダの学校に関する映像の提示, デジタル教科書の活用を通して, 内容を理解させ, 音読練習をさせる。
5	発展的な表現活動 1 【目標】 学校生活や学校の紹介をしよう。 ・ 帯活動 I・II ・ Writing Plus のモデル文の理解 ・ 帯活動をもとにして, 自分の学校生活や学校の紹介をする英文を書く表現活動	☆ 帯活動 I の Q & A を用いて疑問詞を用いた基本的な質問とその応答を定着させる。 ☆ 帯活動 II で <u>学校の部活動</u> について表現させる。 ◎ 学校生活や学校紹介をするための英文の例を書画カメラで提示する。
6	発展的な表現活動 2 ・単元のまとめ 【目標】 学校生活や学校の紹介を発表しよう。 ・ 帯活動 I・II ・ 新出語句, 重要表現の確認・復習 自分の学校生活や学校の紹介を発表する表現活動	☆ 帯活動 I の Q & A を用いて疑問詞を用いた基本的な質問とその応答を定着させる。 ◎ 生徒が作成した英文を書画カメラで提示する。

5 本時の実際 (4 / 6)

(1) 主題 「Unit7 カナダの学校」

(2) 学習目標

- 外国の学校生活について興味・関心を持ち, 積極的にコミュニケーションを図ろうとする。
- 外国の学校生活や自分の学校生活について, 適切な語彙や表現を用いて表現することができる。
- 疑問詞のある疑問文の形・意味・用法について理解するとともに, 自分の考えを述べる表現を身に付けている。

(3) 研究仮説に沿った授業設計の視点

- 導入の段階で, 短時間で相手と英問英答を行い, 疑問詞などを用いた問答など, コミュニケーションを支える語彙・文構造の定着を図る場を設定する。(帯活動 I)
- 導入の段階で, キーワードゲーム等を用いて継続的かつ段階的な活動を行い, 本単元の最終目標である学校紹介について, 生徒がスムーズに表現できる場を設定する。(帯活動 II)
- 生徒たちの普段の学校生活や学校紹介に役立ちそうな画像, また外国の学校生活の様子を感じることのできる画像等を用いて, 生徒の興味や学習意欲を高める場を設定する。
- 内容理解の促進を図るために, デジタル教科書やプレゼンテーションソフト等を用いる。その上で重要事項はフラッシュカードや黒板による掲示を効果的に併用することで, ICT とこれまでの教具それぞれの特性を活用する場を設定する。
- 教科書の対話の内容を基に, 放課後の自分の過ごし方等について考えさせ, 帯活動等で身に付けた文構造を用いて自己表現を図る活動において, 4 技能を統合したペアやグループでの活動を取り入れる。このことにより, 理解力や思考力を深め, 自己表現ができるような場を設定する。

(4) 評価規準と生徒の姿

観点	評価規準	生徒の姿
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペア・グループワークにおいて、間違ふことを恐れず話そうとする。	ペア・グループワークにおいて、会話を続けている。
外国語表現の能力	放課後の過ごし方等について口頭で表現できる。	学んだことをいかして、自分の放課後の過ごし方を口頭で述べている。
外国語理解の能力		
言語や文化についての知識・理解	疑問詞のある疑問文の形・意味・用法について理解している。	疑問詞のある疑問文を用いた対話を行っている。

(5) 授業の展開

(☆：言語活動，◎：ICT活用)

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	仮説実証の視点
導入	1分	一斉	1 あいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> 明るい雰囲気です授業を始められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 短時間で相手と英問英答を行わせる。 ☆ 学校生活や学校紹介をするための文を確認させ、練習させる。
	3分	ペア	2 帯活動Ⅰに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ペアで帯活動Ⅰに取り組ませる。 	
	5分	一斉	3 帯活動Ⅱに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 一斉で帯活動Ⅱに取り組ませる。 	
	1分	一斉	4 本時の目標を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習内容を踏まえながら、目標を提示し、確認させる。 	
			目標：放課後の過ごし方について伝え合おう。		
展開	6分	一斉	5 教師とのインタラクションによって対話の概要を把握する。 6 新出語句の意味を確認し、発音練習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教材を用いて、スキーマ形成を図りながら概要を把握させる。 フラッシュカードを用いて、新出語句の意味を確認させ、発音練習に取り組ませる。 	◎ 画像等を用いて、生徒の興味や学習意欲をもたせる。
	5分	ペア・一斉	7 教科書の内容について、教師の質問に英語や日本語で答える。	<ul style="list-style-type: none"> 読み取りの視点を与え、内容を確認させる。 	◎ デジタル教科書等の利用と、黒板への掲示を効果的に併用する。
	5分	ペア	8 ペアによる音読練習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 形態を工夫し、対話文の音読練習をペアで行わせる。 	

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	仮説実証の視点
展 開	3分	一斉・個人	9 自分の放課後の過ごし方について、どのような表現をつかったらよいか確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 放課後の過ごし方を、英文で表現させる。 英文を作成する際、語順に気を付け、既習の事項をできるだけ用いるようにさせる。 	☆ 4技能を統合したペアやグループでの活動を取り入れ、理解力や思考力を深め、自己表現ができるようにさせる。
	8分	グループ	10 放課後の過ごし方についての対話活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> カードを使いながら、放課後の過ごし方についてグループで質問したり、それに応答したりする練習に取り組みさせる。 	
	8分	グループ・一斉	11 自分の放課後の過ごし方について英文で表現し、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 教師がモデルを示した上で、作成した英文をもとに自分の放課後の過ごし方を発表させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【モデル】 I'm a member of the baseball team. I play baseball after school. It's fun.</p> <p>I often clean my room. It's very hard.</p> <p>I do my homework. It's not easy, but I study hard.</p> </div>	
終 末	5分	一斉	12 本時の学習内容を確認する。 13 次時の学習内容を知る。 14 あいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> 本時で学習したことを生徒が自分の言葉で説明できるようにさせる。 本時で学んだ表現をもとに、次時においてさらに英文で表現できるように意識付ける。 元気よくあいさつさせる。 	

(6) 検証の方法

- 学習意欲… 生徒の発表の様子や課題に取り組む態度を観察する。
- ICT 活用… 表現活動を意欲的に行うために効果的に活用し、生徒の理解力を高めるのに効果的であったか、自己評価カード等を用いて確認する。
- 言語活動… ペアやグループでの意欲的な取組、意見交換、自分のことばでのまとめができていないかを机間指導や発表活動で確認する。